

水稻の高温登熟対策について

近年、登熟期の高温により玄米が白く濁ったり（白未熟粒）割れてしまう（胴割粒）被害のほか、イネカメムシの発生による品質低下も問題となっています。気象予報や病害虫発生状況等に留意し、以下の対策により品質・収量低下を軽減しましょう。

水稻への被害

猛暑の影響により、白未熟粒や胴割粒が発生し、玄米の品質や収量が著しく低下する被害が懸念されます。



【白未熟粒】登熟期が高温となると多発



【胴割粒】出穂直後の高温と収穫時期の刈り遅れで多発

被害軽減のポイント

適正施肥で肥切れ防止!!

■ **中間追肥で根張りをよくしよう!**
出穂前 30～50 日頃に
ケイ酸カリ (30kg/10a) または
塩化カリ (10kg/10a) を施用しましょう。

■ **穂肥で肥料不足を防ぎましょう!**
生育状況等を確認した上で時期や量を判断しましょう。

【穂肥の目安】

品 種	施用時期	窒素成分施用量 (kg/10a)
コシヒカリ	出穂前 10 日頃	2
ひとめぼれ	出穂前 15 日頃	2
あさひの夢	出穂前 20 日頃	2～3
にじのきらめき	出穂前 15 日頃	2～3
ゆめまつり	出穂前 20 日頃	2～3



適期収穫で刈遅れ防止!!

■ **適期収穫で胴割粒対策!**
高温が続くと収穫時期が早まります。
収穫遅れは胴割粒の発生を助長させますので、適期に収穫しましょう。
収穫適期は品種ごとの積算温度と帯緑色歩合を参考に総合的に判断しましょう。

【収穫適期の目安】

品 種	出穂期からの積算気温	帯緑色歩合
コシヒカリ	950℃	10%
ひとめぼれ	950℃	10%
あさひの夢	1000℃～1100℃	10%
にじのきらめき	1100℃～1250℃	20%
ゆめまつり	1000℃～1150℃	20%



■ **収穫後の乾燥にも要注意!**
急激な高温乾燥を避けて胴割粒の発生を抑制しましょう。

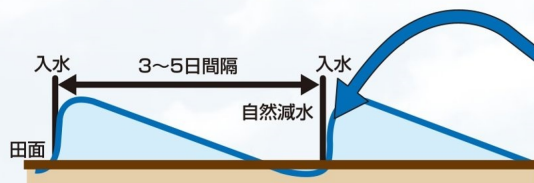
飽水管理で根の活力を維持!!

■ **田植え後は根の活力維持!**
飽水管理、夜間落水により
ガス抜きと酸素供給を行いましょう。

■ **無効分げつを抑制!**
有効茎数 (18～20 本程度) が確保されたら中干を始めましょう。

■ **出穂後は飽水管理で白未熟粒を抑制!**
出穂後 7 日以降は飽水管理を基本としましょう。
高温時 (最高 30℃ 以上、最低 25℃ 以上) は、夜間かん水やかん水回数を増やして地温低下を図ります。

■ **早期落水防止**
落水は出穂後 30 日以降とし、田面の乾燥状況によって走り水を実施しましょう。



足跡に水が残る程度



(写真) 減水時の田面の様子

イネカメムシ対策は“適期防除”が決め手!!

近年の高温によりイネカメムシの発生が問題となっています。

■ **防除のポイント**
・ 出穂期 + 1 回目防除から 7～10 日後に実施しましょう。
・ 高温年は生育が早まるので、適期に薬剤散布できるように生育状況をよく確認しましょう。

成虫の体長 12～13mm イネへの嗜好性が強い



(写真) イネカメムシ成虫

■ **詳細はこちら**
県内における最新の情報は、
県ホームページをご確認ください。



熱中症にもご注意ください ～対策のポイント～

- ・ こまめな水分補給と休息
- ・ 高温時を避けた作業



- ・ 熱中症対策グッズの活用
- ・ 単独行動の回避や定期的な声掛け

